

2021 年 POTY 賞

現在、(公社)日本分析化学会(JSAC)・液体クロマトグラフィー(LC)研究懇談会には、様々な褒章制度が設けられている。例えば、CERI クロマトグラフィー分析賞、LC 努力賞、LC 科学遺産認定、優良企業認定、ベストオーガナイザー賞、最優秀一般会員賞、等々である。これらは、例会への参加回数を競う最優秀一般会員賞を除けば、全て LC、LC/MS などの研究発表に対する褒賞である。所が、LC 研究懇談会の多彩な事業を維持して行く為には、研究面における貢献に加え、運営そのものを支える貢献が不可欠である。従って、LC 研究懇談会の更なる発展を目指すには、研究面に加え、非研究面から LC 研究懇談会の運営に大きな貢献が有った場合にも、その労苦に報いる褒賞を用意しておく必要がある。POTY (Person Of The Year) 賞は、この様な考えから生まれた褒章制度であり、2021 年度第 6 回運営委員会(2021 年 9 月 28 日)でその創設が承認された。本賞の授賞精神は、以下の規定に表現されている。

1. POTY 賞は LC 研究懇談会の発展に大きく貢献した者に授与する。
2. CERI クロマトグラフィー分析賞並びに LC 努力賞の受賞者を授与の対象としない。

さて、第 1 回目の POTY 賞受賞候補者の推薦に関する会告は、JSAC の機関誌「ぶんせき」誌と LC 研究懇談会のホームページに掲載され(推薦締め切り 12 月 5 日)、12 月 7 日に選考委員会が Zoom ウェビナーにより開催された。その結果、三上博久氏(株式会社島津総合サービス)により推薦された小林宣章氏(東洋合成工業株式会社)が、9 名の参加選考委員により満場一致で授賞候補者として選考された。この選考結果は 12 月 14 日に開催された 2021 年度第 9 回運営委員会で協議され、小林氏への授賞が正式に承認された。授賞題目は「LC 研究懇談会各種事業のリモート開催への貢献」である。以下、授賞対象となった小林氏の業績紹介に先立ち、POTY 賞創設の背景を概説しておく。

2019 年の 12 月、武漢で第 1 報が報告された新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で、2020 年度(3 月 1 日~2021 年 2 月 28 日)の全ての例会(第 345 回~第 351 回)が見学会などと共に中止に追い込まれた。LC 研究懇談会の個人会員・団体会員から会費を戴いている以上、無策は許されない。会員諸氏へ少しでも情報をお伝えする手段として、2020 年の 6 月 6 日に電子ジャーナル「LC と LC/MS の知恵」の創刊を機関決定し、一気呵成に 12 月 15 日に創刊号を発行する事が出来た。本電子ジャーナルは 12 月 15 日と 6 月 15 日に定期発行する事としたが、8 月を除いて月ごとに開催していた年 12 回の例会(9 月は JSAC 年会開催時の LC 研究懇談会講演会を例会扱いとしているので、9 月の例会は 2 回)分の情報量には及ぶべくもない。

その為、コロナ禍の影響が甚大となった頃、オンラインで例会を開催する可能性を内々に検討していた。この方面の情報に明るい、JSAC 事務局の三浦隆志職員に相談した所、彼のお子さんが通っている幼稚園で使用している、Google を利用する参加申込方法を紹介された。しかし、当時の私は Google を使用した経験が無かった為、アカウントを取る所から始

めなければならず、時間を掛けられない事も手伝い、ちょっと試しては頓挫する事を数日に渡って繰り返し、結局そのままにしてしまう体たらくであった。そこで、最年少の運営委員で Web ツールに長けていそうに思えた小林宣章氏に全てを託した。即ち、リモート例会に適したツールの選別 (Zoom ウェビナー) を手始めに、講演者用 SOP、オーガナイザー用 SOP、一般視聴者用 SOP の作成を依頼し、それらを整備して貰った。この見事な実績に基づき、小林氏を小委員長とする Web 対応小委員会の創設が 2020 年度第 3 回運営委員会 (5 月 28 日) で承認された。

この様な経緯を経て、小林宣章氏の絶大な尽力で 2021 年度の運営委員会、例会、査読会、更には JSAC 関東支部主催機器分析講習会第 2 コース「HPLC と LC/MS の基礎」(リモート講習会) が滞りなく開催出来た。以上述べた、Web ツールを活用した諸々の事業展開は、偏に小林氏の尽力無くしては果たせなかったものであり、50 年に垂んとする LC 研究懇談会の歴史において特筆すべき軌跡となった。小林氏は有機合成化学分野で博士号を取得した身でありながら、分離科学に比重を置く LC 研究懇談会の発展に大きな貢献を果たした。この特異な業績は、創設された POTY 賞の趣旨に副う顕著な内容であり、選考委員会及び運営委員会の双方において、その最初の授賞者として誠に相応しい人物と判断された。

[LC 研究懇談会・委員長 中村 洋]